

高等学校

平成 10 年 度

教育研究員研究報告書

公 民 科

東京都教育委員会

教育研究員名簿

No.	学 区	学 校 名	氏 名
1	1	都 立 羽 田 高 等 学 校	安 部 敬
2	1	都 立 明 正 高 等 学 校	吉 田 俊 弘
3	2	都 立 世 田 谷 工 業 高 等 学 校	增 田 和 明
4	7	都 立 池 袋 商 業 高 等 学 校	牛 山 悟
5	8	都 立 多 摩 高 等 学 校	小 峰 直 史
6	9	都 立 農 林 高 等 学 校	山 口 伸 樹

担当 教育庁指導部高等学校教育指導課 指導主事 石井 杉生

目 次

研究主題 現代社会の諸問題の解決に向けて、生徒一人一人が主体的に考え、
判断し、行動する力を培う指導の工夫

I	主題設定の理由と研究の経過	
1	主題設定の理由	2
2	研究の経過	2
3	研究内容についての構造図	3
II	第1分科会 ごみ問題 ー解決の方途を探る「現代社会」の授業ー	
1	研究内容と方法	4
2	指導計画	5
3	指導案	
<1>	「ごみ問題の実態を知ろう」	6
<2>	「ごみ問題解決の糸口を探ろう」	7
<3>	「ごみ問題解決に向けてのシナリオを作ろう」	13
III	第2分科会 気付き、分かち合う“環境”の授業 ー生徒参加型授業の実践ー	
1	研究内容と方法	14
2	指導案	
<1>	エンカウンターで学ぶ環境問題の授業 「センス・オブ・ワンダー」他	15
<2>	ゲームで学ぶごみ問題の授業 「ごみ問題における社会的ジレンマ」	18
<3>	ロールプレイで学ぶごみ問題の授業 「ごみの有料化をめぐる」	21
IV	分析と考察	24

I 主題設定の理由と研究の経過

1 主題設定の理由

今日の科学技術の進歩と経済の発展は、人類の生活に物質的豊かさと便利さをもたらした。しかし、反面、自然と人間との触れ合いの減少、人間関係の希薄化などの問題を生じさせている。現代人は、物質的豊かさや便利さに心を奪われてしまって、現代社会の諸問題の解決に向けて主体的に行動する意欲や態度を失いかけていないだろうか。他人まかせにしているだけでも何となく生活できてしまう現代社会の危険な一面に目を向ける必要がある。

これからの学校教育においては、現代社会が抱える諸問題を生徒自身の問題としてとらえさせるとともに、社会的連帯感や豊かな人間性を養うことがより重要となってくる。自分のみが幸福になろうとする利己的な狭い幸福感にとどまることなく、社会や他者に対する責任意識をもち、互いに協力することによって、社会全体の幸福を実現しようとする力を養わなければならない。

特に公民科においては、現代社会の諸問題の解決に向けて、主体的に考え、判断し、行動する力を培うことが課題であると考えられる。主体的に行動する力を培うにあたっては、生徒にとって身近な素材を取り上げることによって学ぶ意欲を喚起し、生徒が相互のかかわりを通して、互いを生かし合い尊重し合えるような授業を構想する必要がある。そこで、社会の著しい変化に主体的に対応し、責任ある判断に基づいて行動しうる力、他者と協調し他者を思いやる心を培うために、生徒同士が生きる主体として互いを尊重し合える授業を工夫した。

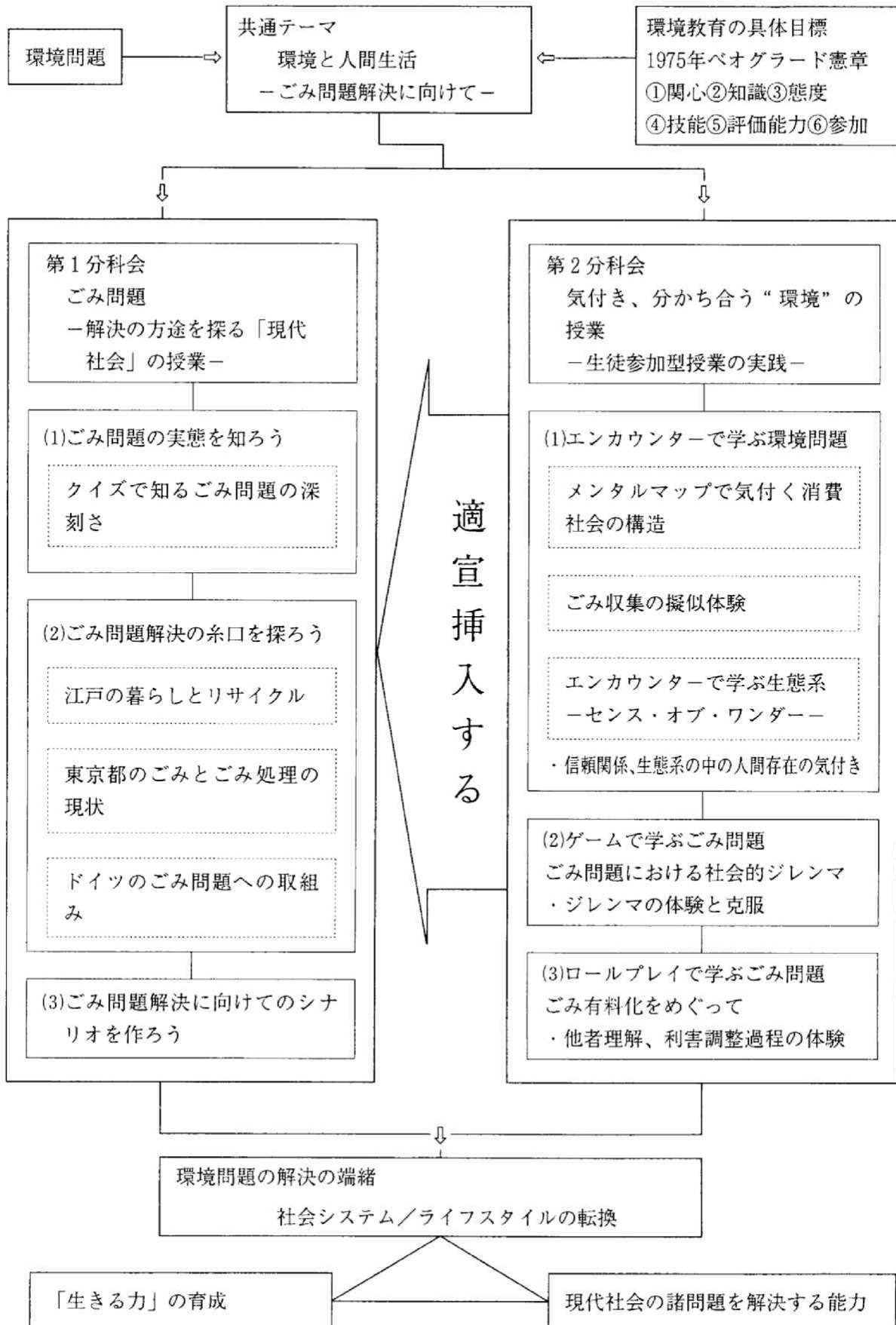
2 研究の経過

本部会では、主体的に行動する力を培うために、生徒一人一人が学習の主体となる授業を構想した。具体的には、体験的な学習、問題解決的な学習、学び合うことを重視した相互啓発的な学習（討論・発表など）、作業的な学習、調査・報告を主とした学習などを取り入れることにした。単に知識を伝えることに終始せず、それぞれの学習形態の優れた面をできるだけ生かして、生徒が積極的に参加する授業を工夫することが肝要であると考えたからである。

現代社会の諸問題のうち、人類の課題であるとともに生徒自身が生きていく上での課題でもある環境問題、とりわけ生徒にとって一番身近な問題である「ごみ問題」を取り上げ、3名ずつ2つの分科会に分かれて研究を行った。第1分科会は、深刻なごみ問題の現状に目を向け、制度・社会システムの面から、また個人の生き方の面から、有効な解決方法を探究する授業を構想する分科会である。第2分科会は、ごみ問題に対処するにあたって、人間同士が信じ合い理解し合うこと、社会的連帯感を深めることが重要であることに気づき、実際に他者とかかわる中で、信頼関係を醸成する過程を体験する授業を構想する分科会である。

なお、第2分科会の指導案は、第1分科会で構想された基本的な学習内容をさらに掘り下げて、学習の深化発展を図るための工夫として示したものである。授業者は、基本的には第1分科会の指導案に沿って授業を構成し、第2分科会が構想する各々の授業内容・方法を適宜に挿入したり活用したりすることによって、生徒の興味・関心を重んじながら、バリエーションに富んだ深みのある授業を創造することが可能である。

3 研究内容についての構造図



ごみ問題 —解決の方途を探る「現代社会」の授業— (第1分科会)

1 研究内容と方法

本分科会では、基礎的・基本的な事項の理解のうえにたつて、生徒自らが問題を認識し、考え、判断することによって行動できる能力を育てるための指導について研究した。具体的には、生徒の日常と最も密接に関係し、なおかつ早急に解決を迫られている現代社会の課題であるごみ問題をテーマとすることにした。

公民科の学習指導要領では、環境に関する問題は、主に①現代社会「(2) 環境と人間生活」、②倫理「(2) 現代社会と倫理 イ 現代社会を生きる倫理」、③政治・経済「(3) 現代の経済と国民生活 ウ 現代経済と福祉の向上」で扱っている。今回はテーマに即して考え、「現代社会」の授業で扱うこととした。

現代の大量生産、大量消費の社会で暮らす私たちは誰一人としてこの問題を自分とは関係のない問題として片付けることはできない。特に今までの「ごみをいかに適正に処分するか」という視点から脱却し、「いかにごみを出さないか」が求められている現在、各自の意識の深まりとそれによる行動こそが重要である。中でも高校生は、現代消費社会の動向を左右する大きな影響力をもっている。こうした現実に着目し、生徒たちの中にある「知っているにこしたことはないけれど、知らなくても平気でしょ」という空気を突き破り、自分自身や属している社会全体の問題として「考え、行動する」姿勢の育成を目指し、教材化することとした。

一口にごみ問題といっても、内包する問題は多様である。日常生活から排出される一般廃棄物(本研究ではこれを主に題材とした。)の他に産業廃棄物、さらに21世紀には世界各地の原子力発電所からの核のごみまで、それら一つ一つが我々の生活様式と密接にかかわっている。ごみ問題は生徒たちの日常生活にどのようにかかわっているのか、問題がより深刻化すれば、日常生活にどのような影響が出るのか、解決に向けて何を意識し、どのような行動を取ればよいのか。これらを、生徒の生活実態に重ね合わせながら、できるだけ具体的に理解させたいと考え、全体を5時間の構成とした。

第1時では、クイズや教室のごみ箱といった身近な素材から深刻な実態に改めて関心をもたせることを考えた。2、3、4時では、江戸時代と現在の東京、さらにドイツのごみ事情や取り組み等について学ぶことで、現在の我々の視点とは異なる角度からの問題解決のヒントを探らせることを目指した。特に「処理」という視点より「排出しない」ことの重要性に気付かせたいと考えた。第5時ではそれまでの学習を基に、個人の行動、社会システムの両面からごみ問題の解決に向けたシナリオを作らせることで、具体的な行動を促す契機となるよう授業展開を工夫した。なお、作成に当たり以下の点に特に配慮した。

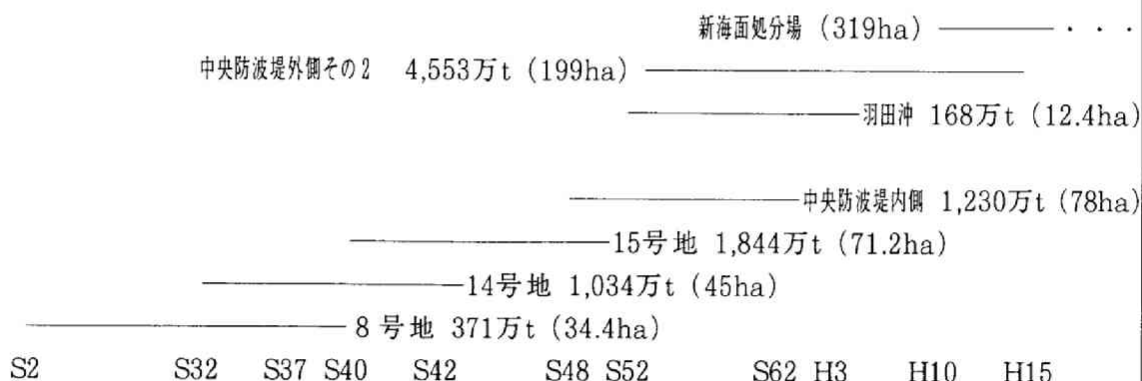
- 1 基礎基本として押さえる必要のあるものを精選すること。
- 2 他者との関係を重視し、人間尊重の立場に立つこと。
- 3 生徒の日常生活に身近な題材を選択すること。
- 4 生徒の活動や参加の場を増やすため、学習の深化を図る第2分科会の研究内容との関連性を重視すること。

2 指導計画 ごみ問題 ー解決の方途を探る「現代社会」の授業ー

	学習項目	具体的な学習内容	特に留意した点
第1時	ごみ問題の実態を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式のワークシートを用いて、ごみ問題の認識度を生徒各自に確認する。 ・教室内のごみ箱の実態を調査する。 ・VTRを用いて、ごみに関する現状について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ問題は他人ごとでないこと及び問題の深刻さを各自に再認識させる。 ・日々の自分のごみの排出に関してとっている行動を振り返らせる。 ・ごみ問題の発生の原因について考察させる。 ・ごみ問題の自分の問題としてとらえさせる。
第2・3・4時	ごみ問題解決の糸口を探ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ問題解決の糸口を歴史に学ぶ（江戸時代と現代の生活を3R－Reduce, Reuse, Recycle－の観点を中心に探る。） ・現在の東京のごみを取り巻く状況、ごみ処理の実態及びその対策を知る。 ・ドイツのごみ問題への取組みを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代のごみの状況を知ることにより、何が、誰がごみ問題を深刻にしているのかを考えさせる。 ・ごみ問題は、処理のみに重点をおいた方法では解決できないことに気付かせる。 ・ドイツとわが国のごみ問題の取組みや考え方の違いを比較し、よりよい解決の方法を考察させる。
第5時	ごみ問題解決へ向けてのシナリオを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・社会システムの改革の必要性や個人の意識の変革の重要性等、ごみ問題解決の方法を多角的にとらえてみる。 ・一個人として、今から行動できることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理屈やルールは理解していても、実行が伴わないところに、ごみ問題の深刻さがあることを再認識させる。 ・生徒一人一人の発想を大切にするとともに、お互いの考え方や意見を交換することを通して、解決策を探究させる。 ・各自の日々の行動がごみ問題の解決を左右していることへの自覚を深めさせる。

- 5 1 t 当たりのごみを処理する費用は (3 万円 ○ 6 万円 10 万円)
 6 東京23区でごみを処理するために使われた費用は 約 7,400 億 円
 7 平成 8 年度、多く出された粗大ごみのうち、第 1 位は
 (○ふとん 椅子 自転車)
 8 廃棄されるプラスチックの内、最も割合が大きいのは、
 (家庭用雑貨 電気製品 ○容器包装)

埋め立て処分場の変遷に関する資料



資料 2 V T R 「ごみの行方、これからの東京」(東京都清掃局制作 平成 9 年)

〈2〉ごみ問題解決の糸口を探ろう

「第 2 時 江戸の暮らしとリサイクル」

(1) 本時のねらい

江戸時代の庶民の暮らしと現代の暮らしを比較することによって、時代の流れが生態系の循環作用を大幅に超えた質と量のごみを生み出していることに気付かせる。

(2) 本時の展開

	学 習 項 目	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入 10 分	江戸の暮らしの把握	・江戸の暮らしについて図版(資料1)を見ながら、当時の生活の様子を理解する。	・江戸時代の歴史的背景についても簡単に触れる。
展 開 30 分	江戸の暮らしと現代の暮らしの比較	・図版を読み取り、以下の点を中心に現代の暮らしと比較しながらワークシート(資料2)に記入する。 ①小売りの方法 ②購入の方法 ③ごみ処理の方法 ④自然環境(生態系)への影響	・「3R」「生態系」という用語についても簡単に説明する。 ・ワークシートに記入された事項が、それぞれ3Rのどれにあたるか解説する。
ま と と	比較結果の考察	・現代の暮らしとの相違点を確認する。 ・以下の点について考察する。	・暮らし方がごみを生み出していることに気付かせる。

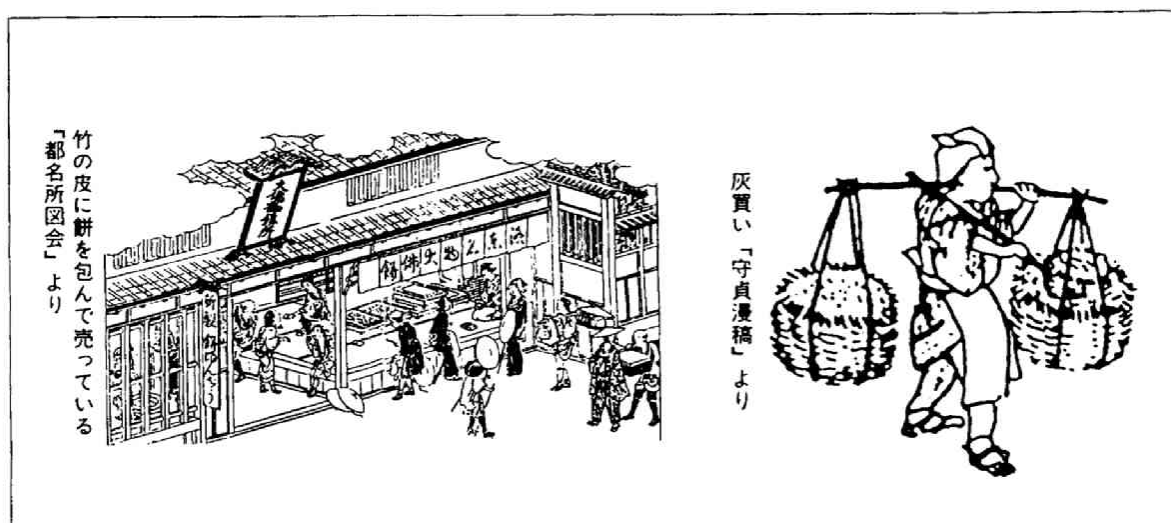
め 10 分	①エコロジーショッピング（環境に配慮した買い物）は可能か。 ②リサイクル社会の構築は可能か。
--------------	---------------------------------------------------

(3) 評価の観点

- ①暮らし方の相違がごみを生み出す原因となっていることが理解できたか。
- ②江戸時代の暮らし方をヒントにしてごみ問題解決の糸口がつかめたか。

(4) 資料

資料1 江戸時代の暮らし方（図版）



資料2 ワークシート

	江戸時代	現代（スーパーマーケット）
包装形態	（竹の皮など）	（セルフサービス）
商品の持ち帰り方	（かご持参）	（トレイ・パック）
排出されるごみ	（竹の皮など）	（レジ袋）
ごみ処理の方法	（焼却）	（分別回収→焼却による有毒ガスの発生）
処理されたごみの行方	（灰として肥料に）	（埋め立て処分）
自然環境への影響	（また自然に還元）	（自然に還元することができず生態系のバランスを破壊）

(5) 参考資料

石川英輔「大江戸リサイクル事情」講談社

第3時 東京都のごみとごみ処理の現状

(1) 本時のねらい

東京都のごみ問題の現状について学び、その深刻さについて確認する。他の地域と共通する課題や東京都特有の課題について考察させるとともに、この問題の解決に向けて主体的に考えるきっかけとする。

(2) 本時の展開

	学 習 項 目	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入 10 分	ごみ処理作業 の経過の確認	・自治体の日常の清掃活動の様子を資料から読み取り、印象に残ったことを発表する。	・ごみは「消えて無くなるわけではない」ことを再確認する。
展 開 35 分	東京都のごみの 現状について さまざまな問 題点 リサイクルの 限界	資料を読み取り現状を分析する。 ・区部と多摩地域のごみ組成の比較 ・区部における可燃・不燃ごみの伸び ・ごみ処理コストの上昇を確認する。 （収集、運搬、焼却等中間処理、埋め立て） ・各処理段階での公害の発生。 （有害物質の種類と対策） ・最終処分場の容量と逼迫状況。 ・リサイクル率は年々上昇しているのにごみは減っていないのはなぜか、発表し合う。	・どのようなごみが増えているのかに注目させる。 ・生徒に挙げさせた中から問題点を絞り補足を加える。 ・今までの、いかに適正に処理するか、の視点では現状が変わらないことに気付かせる。
ま と め 5 分	汚れのブー ラン	・ごみ問題から目をそむけると、実害が必ず自分に帰ってくる実例についての説明を聞く。（処理コスト、有害物質 等）	・次時に向けて動機付けにとどめ深入りしない。

(3) 評価の観点

- ① 東京都のごみ問題の現状と特徴について理解できたか。
- ② ごみの増加の問題や、ごみの増加と自分とのかかわりについて、主体的に考えることができたか。

(4) 参考文献

「通販生活 No.189」（ゴミから見た「わが街」の消費）カタログハウス

第4時 ドイツのごみ問題への取組み

(1) 本時のねらい

ごみ問題への取組みにおいて成果を上げているドイツの事情について学び、個人の良識や努力に頼りがちだった日本のごみ処理との違いについて考察する。さらに、わが国との条件の違い、それぞれの長所や短所を出し合うことによって、あらためて、身の回りのごみ問題の現状について考えるとともに、この問題の解決に向けて望ましい社会システムについて考える。

(2) 本時の展開

	学習項目	学習活動	指導上の留意点
導入 10分	第1時の復習	・ごみの観察（復習）を通じて容積比で約6割が容器・包装類であることを改めて確認する。	・復習として生徒に発表させる。
	緑のマーク提示	・ドイツの緑のマークを示し、ドイツを中心としてシステムを学習する確認をする。	・緑のマークの意味は説明しない。
展開 30分	ドイツの一般ごみ処理システム	・HNKビデオ「包装法が企業を変える」を見て、ドイツの廃棄物処理システムについて学ぶ。 ・緑のマークのついたごみを数種類提示し、実物を確認する。	・ワークシートに要点をメモさせる。 ・「環境と公害を考える」のP37も参考になる。
	ドイツと日本の比較	・両国のシステムについて、類似点、大きく異なる点を発表する。 ・消費者、メーカー、DSDそれぞれの立場でどのように行動するか発表する。	・ロールプレイの手法も活用できる。
	周辺各国への広がり	・経済原則にのせたごみ処理が効果を上げていることに気付く。（結果として廃棄物が減少） ・欧州各国に広がっている例としてフランスの例の説明を聞く。	・消費者、メーカー、DSDのどこも損をしていないことを押さえる。 ・フランス、アメリカの制度についての表を活用する。
まとめ 10分	わが国が学ぶことのできる点	・わが国で同じシステムを実行する上での学ぶべき点、問題点についてまとめてみる。	・各自シートに記入し発表してみる。

(3) 評価の観点

- ① 諸外国においてもごみは大きな社会問題となっている現状が理解できたか。
- ② わが国の従来のごみ処理の過程には見られない発想や方法について理解できたか。
- ③ ごみ問題について主体的に考えていこうとしたか。

(4) 資料

ドイツのごみ問題への取組み

1 私たちの排出するごみの約6割は、(容器・包装類) である。

2 ビデオ「包装法が企業を変える」を見て記入しよう。

① 1980年代までドイツのごみの量は増えていたか、減っていたか。

② 自宅前におかれたごみ箱の特色は、

⇒ 市役所から (有料) で借りる。使用料は60Lで年間約 (1,300) 円

↓

240Lで年間約 (5,000) 円

思ったほどごみは減らない。

③ 体積で家庭ごみの約50~60%を占める (容器・包装類) に着目

1991年 (包装廃棄物規制令) の制定

各メーカーが包装・容器ごみを (回収) し (リサイクル) する義務を負う。

↓

メーカーが共同で設立した回収・リサイクル専門会社 (DSD) のごみ箱

・ごみを (分別) したくてよい。

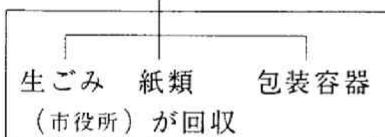
⇒ ・ごみ箱使用料は (無料) で、

・回収は、(2週間) に1回

④ ドイツの家庭ごみの回収ルート

〈1980年代〉

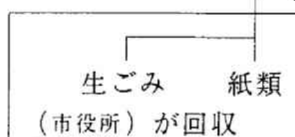
家庭



→ → →

〈現在〉

家庭



⑤ このシステムがうまくいっているポイントをそれぞれの立場から考えよう。

A メーカー・販売業者

いちいち (回収) し (リサイクル) する手間がはぶける。

B 消費者

市役所から借りている (ごみ箱代) の節約のため、(緑のマーク) の商品を買う。C

DSD

(緑のマーク) の商品が売れるほど、会社の経営は安定する。

【従って、どこも損をするところがない。】

3 ドイツのごみ処理システムと日本のものとを比較してみよう。気付いたことを箇条書きにしてみよう。

(似ている点)

- ・市役所が回収
- ・分別する

(異なる点)

- ・タダのごみと有料ごみ
- ・メーカーの責任で回収・リサイクル

4 緑のマークがもたらしたものについて考えてみよう。

緑のマークを製品に付ける時の使用料→ (素材によって異なる)

ガラス	0.15DM (11円)	プラスチック	2.95DM (207円)	1DM=70円
紙	0.40DM (28円)	紙パック	1.40DM (118円)	料金はkg当り
鉄	0.56DM (39円)	複合材	2.10DM (147円)	
アルミ	2.95DM (105円)	天然素材	0.20DM (14円)	

① マークの使用料のうち、最も高いものと安いものをあげてみよう。

- ・最も高いもの (プラスチック)
- ・最も安いもの (ガラス)

② ①の差は、何が原因か予想してみよう。

- ・ (リサイクルのしやすさによって料金が設定されている。リサイクルしにくい素材ほどマークの使用料は高く設定してある。)

③ ②のような状況のもとで、メーカーや消費者は、それぞれどのような行動をとるか考えてみよう。

・メーカー

・消費者

↓

例えば、洗剤容器

プラスチック 183g

使用料 38円

↓

- ・ (濃縮して量を減らす)

- ・ (プラスチック容器を薄く

↓ し紙で補強する)

プラスチック 34g 紙 20g

(使用料 8円)

ごみ処理のルールを作ることで (ごみそのものの量が減ってきている)

(フランス・ベルギー・デンマーク) 等の周辺国にも広がっている。

5 日本で同じシステムを実施することは可能だと思うか、理由と合わせて考えをまとめてみよう。

第5時 ごみ問題の解決に向けてのシナリオを作ろう

(1) 本時のねらい

ごみ問題に関するまとめとして、江戸時代や現代のドイツのごみ対策など今までの学習を基に、東京都のごみ問題の解決策を各自で考える。また、多様な解決策を整理することにより、ごみ問題の課題と対策を整理する。

(2) 本時の展開

	学習項目	学習活動	指導上の留意点
導入 10分	・前4時間の復習	・江戸時代の暮らしやドイツのごみ問題への取組みを思い出す。	・生徒に発問し、いくつかの具体例を挙げさせる。
展開 30分	ごみ問題解決策の策定	・東京における、ごみ問題の解決策を各自で考える。	・生徒の自由な発想を大切に する。 ・江戸時代やドイツのごみ問題解決の視点を思い出させる。
	解決策の分類	・ワークシートの配布を受け、具体策をマトリックスに記入することにより、ごみ問題解決の視点を体系化する。	
まとめ 10分	解決策の分類を考察する	・マトリックスを基に、ごみ問題解決策を整理して、気付いたことを発表する。	・他の解決策を参考にして、各自の解決策を一層工夫するよう指示する。

(3) 評価の観点

- ① ごみ問題解決に向けて積極的かつ具体的に考えたか。
- ② ごみ問題の解決の多様性を理解できたか。

(4) 資料 「ごみ問題解決策のマトリックス」

改善すべきこと	個人レベルでの解決策	社会制度としての解決策
大量生産（ごみになるものを作らない）		
大量販売（ごみになるものを買わない）		
大量廃棄（ごみを捨てない）		

Ⅲ 気付き、分かち合う“環境”の授業

—生徒参加型授業の実践— (第2分科会)

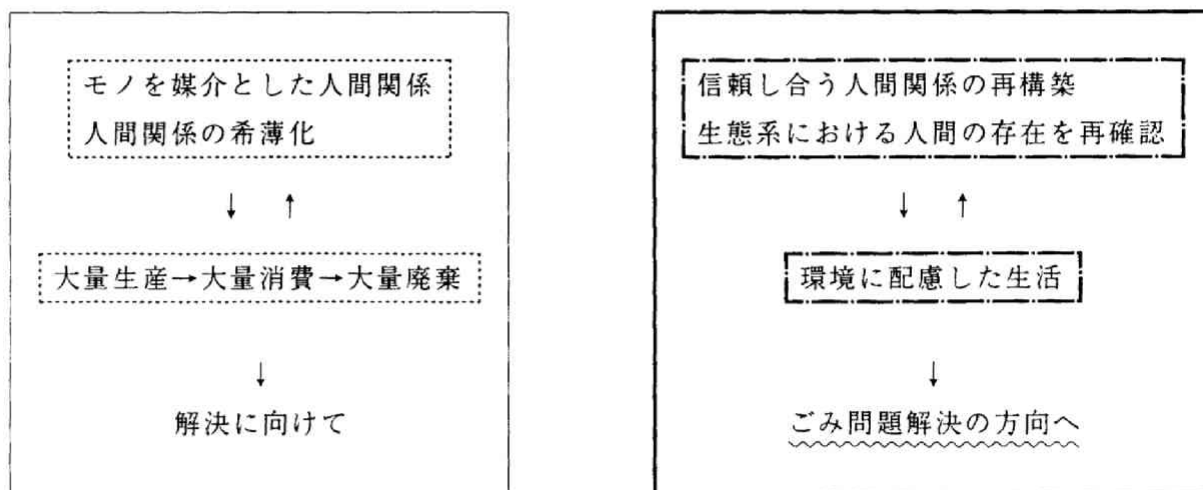
1 研究内容与方法

第2分科会が作成した授業案は、第1分科会で構想された学習内容を深化発展させることをねらいとしたものである。したがって、後に示す各々の指導案は、第1分科会が作成した基本的な指導計画の流れの中に適宜に挿入できるように工夫されている。

さらに、第2分科会では、以下の4点を研究の主眼とし、研究を深めた。

- (1) 環境問題のうち特に身近な問題である「ごみ問題」に焦点をあてて、生徒の学習意欲を喚起し、主体的に考える力を養う。
- (2) 生徒相互、教師と生徒のコミュニケーションを重視するとともに、生徒の感性を豊かにする授業を創造する。
- (3) 教師主導型の授業から生徒参加型の授業への転換を図るための具体的な方法を探究する。
- (4) 新学習指導要領に新設される「総合的な学習の時間」を視野に入れた授業内容・授業方法を探究する。

第2分科会では、「気付き、分かち合う“環境”の授業」というテーマを設定した。環境問題に対処するためのキーポイントは人間同士の信頼関係の再構築、心と心のつながりであると考えたからである。人間同士の信頼関係、互いを理解し合って連帯することの重要性をいかにして実感させることができるだろうか。以上のような課題について研究することとなった。



そこで、生きる主体としての生徒が互いを尊重しながらかかわり合う中で、自己を再確認するとともに、現代社会の諸問題を解決していくために不可欠の連帯感と信頼感を分かち合える授業を工夫した。具体的には、エンカウンター、ゲーム、ロールプレイを取り入れて、心と体のエネルギーを活性化させる体験を重視した授業を実践することにした。

2 指導案 〈1〉エンカウンターで学ぶ環境問題の授業

－「センス・オブ・ワンダー」他－

(1) はじめに

エンカウンターとは、集団内の人間関係（体験）を通して自他理解を深めること、人間関係を深化させることを目的とした教育方法である。

(2) 授業のねらい

周知のように、日本の環境教育は次の2点で、質的転換が求められていると言える。

- ① 一方的な知識伝達から体験を通して気づきや学びを繰り返す学習へ。
- ② 「大量採取→大量生産→大量消費→大量廃棄」の構造を押さえ、人間性・人と人との信頼関係を回復し、一市民としての成長を促すプランへ。

エンカウンターという手法は、演習を通して生徒間に相互交流を起こし、信頼感やふれあいを体験させる。その意味で、環境倫理に基づいた社会の実現を目指すこれからの環境教育に有効であろう。こうした問題意識から本指導案は構想されたのである。

(3) 授業の展開

★その1 メンタルマップで気付く消費社会の構造－「消費社会の中の私」－

「大量採取→大量生産→大量消費→大量廃棄」の構造の中に我々が組み込まれていることを自覚させることが目的である。この授業案は、第1分科会「ごみ問題の実態を知ろう」で使用できるプランである。

	学 習 項 目	学 習 活 動	指導上の留意点
30分	「メンタルマップ」の作成 シェアリング（注）	<ul style="list-style-type: none"> ・ B4の上質紙に課題1と2を行う。 ・ 課題1：最寄り駅から学校までの地図を詳しく書いてみよう。 ・ 課題2：自動販売機をポイントしてみよう。 ・ 地図の中で何が多く書かれているのか。何が書かれていなかったのか等、感想を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンビニエンス・ストアがいかに生活の中に組み込まれているか気付かせる。

（注）シェアリングとは、「ふりかえり」と訳される。演習を通して感じたこと、学んだことを話し合ったり、発表したりすることである。グループメンバーの思考・感情・行動を修正・拡大する機能がある。

★その2 ごみ収集の疑似体験をしてみよう！－人と人との結び付きを考えてみよう！－

ここでは現在のごみ回収システムが「信頼」という暗黙のルールの上に成り立っていることに気付かせる事を目的とする。この授業プランは、第1分科会の3時間目「東京都のごみとごみ処理の現状」に関連させたセッションとなる。

	学 習 項 目	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
	ごみ収集の擬似体験	・目隠しをし、ブラックボックスの中のごみを探る。「怖さ」と、現在のごみ回収システムが「信頼」というルールの上になりたっていることを体験する。	・「 」内は、教師が注意を促す必要がある。
	シェアリング	・カードの利用〈筆記形式〉もしくは発表形式で感想を共有する。	・包丁、ペット等のごみの事例を知らせる。

★その3 「エンカウンターで学ぶ生態系—センス・オブ・ワンダー—」

このセッションでは、生徒に、人と人との信頼感の体験と生態系の中で人の占める位置について気付かせたい。第1分科会「江戸の暮らしとリサイクル」の前後に挿入可能である。また、学習のまとめにもなる「ごみ問題解決に向けてのシナリオを作ろう」の学習にも十分活用できる。

	学 習 項 目	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入 10 分	信頼感形成のための「ウォーミングアップ」	・2人1組の班を作る 引越しの挨拶（隣へ引越してきた前提で挨拶を行う。）後ろに倒れるゲーム（一人が後ろへ倒れ一人がそれをささえる。）	・雰囲気作りが目的。 ・孤立者が出ないようにグループ分けに配慮する。
展 開 ① 15 分	ブラインドウォークの実習 シェアリング	・一方が目隠しをして、もう一方が安全に誘導する。教室を出て階段をつかい、外に誘導する。パートナーになるべくたくさんの経験をさせ役割交代する。	・安全面に注意する。 ・発言を求める。筆記形式でも可。
展 開 ② 25 分	生態系の中で人間がどのような位置を占めているのかを実感させる（自然と人間の関係性のエンカウンター）	・2人のグループに、「水」「川」「海」「空気」「太陽」「土」「樹木」「植物」「鳥」「昆虫・バクテリア」「動物」「米（食料）」「魚」「工場」「人：2～6グループ」等の役割をくじ引きで決める（役割パネルを首に掛ける）。	・準備するもの：多色の毛糸、それぞれの役割を書いたパネル。 ・教室外での演習が望ましいが、教室内でも可能である。

- ・発問1 「生きるために必要なモノ（役割）は？」と発問。



- ・「人グループ」を「先進国」「開発途上国」の「人」に分けると後の学習に深みが出る。
- ・必要なモノ〈役割〉同士を毛糸で結び付ける。

- ・毛糸の結び付き具合に注目させる。

→発問1の望ましい質問順番は、「魚」「動物」「植物」「樹木」「鳥」「昆虫・バクテリア」と質問をし「空気」「二酸化炭素」「土」「川」「海」「太陽」と続け、最後に「人」「工場」と指名していく。

→「毛糸を切ったことはどういう現象なのか」と生徒に発問を返すことで思考を膨らませます。

- ・発問2 「利益を追求するために工場が汚水を川に垂れ流しました。どうなるでしょうか？」川の汚染で影響の出る毛糸をすべてハサミで切る。発問3, 4も同じように毛糸を切る。



- ・自然界における人間の消費者としての立場に気付かせる。また「生命への畏敬」についても言及できる。

- ・発問3 「自分1人ならかまわないと、山林に有害物質を不法投棄しました。どうなるでしょうか？」
- ・発問4 「途上国に輸出した危険な産業廃棄物が漏れ、海を汚染しました。どうなるでしょうか？」

- ・結果は、次の時間にプリントにして発表してもよい。

- ・人と人（国と国）との関係性が希薄なとき、環境破壊が起き、生態系のバランスが崩れることに気付く。



シェアリング
(5分)

★その1からその3の指導案は、授業者が適宜、選択・応用することで授業効果があがる

〈2〉 ゲームで学ぶごみ問題の授業 — 「ごみ問題における社会的ジレンマ」 — (2時間)

(1) はじめに

現代人は、ごみ問題に対処する際に個人の利益を優先させる結果、最終的には全体の利益が損なわれてしまうパラドキシカルな状況(社会的ジレンマ)に陥っている。

(2) 授業のねらい

- ①ごみ問題は、環境保全という共通利益と消費による利便性の享受という個人利益とが対立する社会的ジレンマであることに気付かせる。
- ②社会的ジレンマを克服するために、信頼関係を深める必要があることを考えさせる。

(3) 指導案

	学習項目	学習活動	指導上の留意点
導 入	社会的ジレンマとしてのごみ問題	・発問「環境に配慮した行動をとるべきという意識と実際の行動とが一致しにくいのはなぜだろうか。」	・4～5名で班を編成し、班長を決める。 ・班討議の後、発表。
展 開	班メンバーの役割 決め	・「ごみ排出者A、B」2名 ・「得点分配係」1名～2名 ・「審判記録係」1名	・「ごみ排出者A、B」はプレイヤーであることを説明する。
	カードの配布 —資料1— カードの種類	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">混合ごみカード</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">資源化カード(+3点)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">共減カード(-3点)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">分別ごみカード</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">不当利得カード(+5点)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">被害カード(-5点)</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ごみ排出者A、B」がそれぞれに受け取るカードは、「混合ごみカード」7枚、「分別ごみカード」7枚。 ・「得点分配係」が受け取るカードは、「資源化カード(+3点)」14枚、「共減カード(-3点)」14枚、「不当利得カード(+5点)」7枚、「被害カード(-5点)」7枚。

学習項目	学習活動	指導上の留意点																																																																												
資料2・3の配布																																																																														
-資料2-	ゲームのシミュレーション表	-資料3- 得点集計表																																																																												
展	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ごみ排出者</th> <th>同時に出したカード</th> <th>受け取るカード</th> <th>班の得点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">例1</td> <td>A</td> <td>分別ごみカード</td> <td>資源化カード(+3点)</td> <td rowspan="2">+6点</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>分別ごみカード</td> <td>資源化カード(+3点)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">例2</td> <td>A</td> <td>分別ごみカード</td> <td>被害カード(-5点)</td> <td rowspan="2">0点</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>混合ごみカード</td> <td>不当利得カード(+5点)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">例3</td> <td>A</td> <td>混合ごみカード</td> <td>不当利得カード(+5点)</td> <td rowspan="2">0点</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>分別ごみカード</td> <td>被害カード(-5点)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">例4</td> <td>A</td> <td>混合ごみカード</td> <td>共減カード(-3点)</td> <td rowspan="2">-6点</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>混合ごみカード</td> <td>共減カード(-3点)</td> </tr> </tbody> </table>		ごみ排出者	同時に出したカード	受け取るカード	班の得点	例1	A	分別ごみカード	資源化カード(+3点)	+6点	B	分別ごみカード	資源化カード(+3点)	例2	A	分別ごみカード	被害カード(-5点)	0点	B	混合ごみカード	不当利得カード(+5点)	例3	A	混合ごみカード	不当利得カード(+5点)	0点	B	分別ごみカード	被害カード(-5点)	例4	A	混合ごみカード	共減カード(-3点)	-6点	B	混合ごみカード	共減カード(-3点)	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">獲得したカード</th> <th colspan="2">ごみ排出者A</th> <th colspan="2">ごみ排出者B</th> </tr> <tr> <th>枚数</th> <th>小計点</th> <th>枚数</th> <th>小計点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資源化カード(+3点)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>被害カード(-5点)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>不当利得カード(+5点)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>共減カード(-3点)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレイヤーごとの小計点</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>班の総合計点</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	獲得したカード	ごみ排出者A		ごみ排出者B		枚数	小計点	枚数	小計点	資源化カード(+3点)					被害カード(-5点)					不当利得カード(+5点)					共減カード(-3点)					プレイヤーごとの小計点					班の総合計点				
		ごみ排出者	同時に出したカード	受け取るカード	班の得点																																																																									
	例1	A	分別ごみカード	資源化カード(+3点)	+6点																																																																									
		B	分別ごみカード	資源化カード(+3点)																																																																										
	例2	A	分別ごみカード	被害カード(-5点)	0点																																																																									
		B	混合ごみカード	不当利得カード(+5点)																																																																										
	例3	A	混合ごみカード	不当利得カード(+5点)	0点																																																																									
		B	分別ごみカード	被害カード(-5点)																																																																										
	例4	A	混合ごみカード	共減カード(-3点)	-6点																																																																									
		B	混合ごみカード	共減カード(-3点)																																																																										
獲得したカード	ごみ排出者A		ごみ排出者B																																																																											
	枚数	小計点	枚数	小計点																																																																										
資源化カード(+3点)																																																																														
被害カード(-5点)																																																																														
不当利得カード(+5点)																																																																														
共減カード(-3点)																																																																														
プレイヤーごとの小計点																																																																														
班の総合計点																																																																														
開	<p>ゲームの説明 ※マグネットシートで作成したカードを使用し、黒板上で説明。</p> <p>ア、「ごみ排出者A、B」は、「混合ごみカード」「分別ごみカード」のいずれかを同時に1枚出す。対戦は7回戦とする。毎回のカードの選択は「ごみ排出者A、B」にまかされている。</p> <p>イ、「得点分配係」は、資料2の「シミュレーション表」に従って、1回の対戦ごとに「資源化カード(+3点)」、「被害カード(-5点)」、「不当利得カード(+5点)」、「共減カード(-3点)」のうちの該当する1枚ずつを「ごみ排出者A、B」(プレイヤー)に配布していく。(以下の例を参照)</p> <p>例1)「ごみ排出者A、B」の双方が「分別ごみカード」を同時に出したときは「ごみ排出者A、B」はいずれも「資源化カード(+3点)」を1枚ずつ「得点分配係」から受け取る。</p> <p>例2)「ごみ排出者A」が「分別ごみカード」、「ごみ排出者B」が「混合ごみカード」を同時に出したときは、「ごみ排出者A」は「被害カード(-5点)」、「ごみ排出者B」は「不当利得カード(+5点)」をそれぞれ1枚ずつ「得点分配係」から受け取る。</p> <p>例3)「ごみ排出者A」が「混合ごみカード」、「ごみ排出者B」が「分別ごみカード」を同時に出したときは、「ごみ排出者A」は「不当利得カード(+5点)」、「ごみ排出者B」は「被害カード(-5点)」をそれぞれ1枚ずつ「得点分配係」から受け取る。</p> <p>例4)「ごみ排出者A、B」の双方が「混合ごみカード」を同時に出したときは「ごみ排出者A、B」はいずれも「共減カード(-3点)」を1枚ずつ「得点分配係」から受け取る。</p>																																																																													

	学習項目	学習活動	指導上の留意点
展	<p>ウ、勝敗については、個人戦では、対戦相手よりも多くの得点を獲得した者が勝利者となる。また、班ごとの対戦では、班の得点の合計（2人の「ごみ排出者」が獲得した合計点数）が1番多くなった班を優勝とする。たとえば、「例1」における1回戦終了後の班の合計点数は「+6点」となる。（資料2参照）</p>		
	<p>条件の提示 ※「ごみ排出者A、B」（プレイヤー）に対する以下の条件を板書して全員に示す。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分が班内の対戦相手に負けないように、しかも同時に、自分の班が他の班に負けないように（個人戦にも団体戦にも負けないように）7回戦を対戦せよ。</p> </div>		
開	ゲームの開始と終了	各班ごとにゲームを開始し、終了後に「審判記録係」が資料3の「得点集計表」に対戦結果を記入し、発表する。	・巡回指導し、各役割とゲームの進行状況を確認する。
	<p>◎カードゲームを体験して生徒が気付くこと</p> <p>すべての対戦者・班が上記の条件を同時に満たすための唯一の方法は、すべての対戦者が互いに信頼し合って、1回戦から7回戦まで「分別ごみカード」のみを出し続けること（全員が引き分けること）である。</p>		
まとめ	社会的ジレンマの克服	・資料4をもとに、ごみ問題と社会的ジレンマとの関係を再確認する。	・資料4の内容を板書して、全員に示す。
	<p>—資料4— 社会的ジレンマとは</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>個人にとっては「協力」を選択するよりも「非協力」を選択した方が望ましい結果が得られる。しかし、全員が個人にとって有利な「非協力」を選択した場合には、全員が「協力」を選択した場合の結果よりも悪いものになってしまう。</p> </div>		・発問「社会的ジレンマを克服するために必要な条件は何だろうか。」
			・班討議の後、発表。

(4) 評価の観点

- ① 環境問題をはじめとする現代社会の諸問題については、我々が社会的ジレンマに陥っている側面があることに気付くことができたか。
- ② 社会的ジレンマを克服するためにはどうしたらよいかを追究しようとしているか。

(5) 参考文献

高木 修 編 「社会心理学への招待 若者の人間行動学」 有斐閣
山岸俊男 著 「社会的ジレンマのしくみ」 サイエンス社 他

< 3 > ロールプレイで学ぶごみ問題の授業

——ごみの有料化をめぐる——

(1) はじめに…ロールプレイとは何か

環境をめぐるロールプレイとは、設定された環境と開発に関する課題に対して、日頃の個人の立場や考え方、価値観とは関係なく、与えられた役割を演じることをいう。環境問題を解決するためには、様々な価値観や利害関係が複雑に絡み合っていることを理解し、自分とは異なる立場や価値観が存在することを認識することが大切である。そのうえで、地域や地球環境を保全していくという広い視点から、より良い問題解決のための方策（合意形成）ができるようになるための能力を育成する学習法の一つである。

(2) 授業のねらい

ごみの有料化に代表される経済的手法が、日本において環境政策やごみ政策として急浮上してきたのは、1990年以降のことである。有料化には、ごみの減量を促進し、受益者負担の原則にも適合しているとの主張がある一方、減量化効果などに否定的な意見もある。

そこで、今回は、そのような意見の対立をロールプレイを通して明らかにし、ごみの有料化という政策の是非を考察することにした。ごみの有料化に関わる問題の所在を理解し、合意形成に向けて問題解決の方策を探求していくように授業は構成されている。

なお、このプランは、第1分科会の「ごみ問題解決に向けてのシナリオを作ろう」という授業を発展し、応用できるように考案してある。

(3) 授業の展開

事前準備

- ①テーマ設定 ごみの有料化が行政政策として登場する問題場面を設定する。
- ②登場人物（役割）の設定 利害関係や価値観の対立する役割を5～6種登場させる。
これは、1グループ5人前後で割り当てる。（今回のプランは、6つの役割が登場する。）
- ③シナリオ作り 架空の問題場面をまとめ（資料1）、それぞれの役割で登場す人物の発言のポイントを示した用紙も作成する（資料2）。

展開（第1時）…ロールプレイの説明と役割分担

	学 習 項 目	学 習 活 動	指導上の留意点
30 分	ロールプレイの説明	ロールプレイの目的について生徒に説明する。	日頃の意見から離れても、決定した役割を演じるように注意する。
	役割分担 ・立場の確認 ・シナリオ読み合い ・主張の補強	5～6人のグループに一つの役割を当てる。 各グループは、与えられた役割を全員で確認し、シナリオを読み合わせる。	どんな主張をすれば、相手を説得できるかを考え、資料2の空欄を埋め、模造紙などに主張を書き込んでおく。

展開（第2時）…ロールプレイの展開とまとめ

	学 習 項 目	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入 5 分	ロールプレイの確認 問題場面の読み合い	・前時の確認 ・司会は、教師が行うことを確認。 ・司会が、問題場面（資料1）を読み、A市の逼迫した状況を説明する。	・あらためてロールプレイの約束を確認する。 ・司会は教師が行うこととするが、状況によっては生徒に司会をさせる。
展 開 ① 20 分	ごみの有料化政策の提案と対応 ・各グループ代表による意見表明	・各グループの代表は、模造紙を掲げて、それぞれの立場を説明する。次の順で進行する。 清掃局→市民A→市民B →小売業者→環境経済学者 →22世紀から来た少年（注1）	・本当の公聴会のように、緊張感をもって行う。 ・シナリオの棒読みにならないように、注意する。 ・自己の立場以外の主張を理解させる。
展 開 ② 20 分	ごみの有料化政策をめぐる全体討論 ・グループ間の自由討論	・司会の指示に従い、参加者による全体討論を行う。 ・ごみ有料化政策の是非を様々な観点から検討してみる。	・各グループの代表以外の生徒にも発言を促す。 ・各グループ間で合意形成の可能性を探るが、無理ならば、意見の違いはどこからくるかを考える。
ま と め 5 分	論点の確認と課題	・討論の過程の重要性を確認する。 →討論の論点を整理して、ごみ問題を解決していくための課題を明らかにする。	・司会は討論の過程が大切であることを再確認する。 ・必要に応じて参加者に感想や意見を記入させる。 （注2）

（注1）「22世紀から来た少年」の登場は、未来世代に対する責任まで視野を広げるため。

（注2）新聞記者の役割を加え、記者として今回のごみの有料化の議論をまとめ、論評を加えさせる指導方法もある。

◆資料1 問題の設定

A市は、近年とみに各家庭から排出されるごみの量が多くなり、新しくごみの最終処分場を確保することにした。しかし、不況による財政難とごみ処分場予定地付近の住民の反対もあって、新しい処分場の建設を断念し、市民から積極的にごみの減量化に取り組んでもらう方向に計画を変更した。そこで考案されたのが、家庭ごみの有料化であった。（注1）

（注1）全員で読み合わせをして、A市のごみ有料化政策の背景を理解する。

◆資料2 各グループの役割の発言ポイント

各グループは、より説得的な立論を考えて、下記カードの空欄（…以降）を補充する。

<p>*清掃局*…有料化に賛成（ごみ処理の財源確保と減量効果を強調）</p> <p>現在、市は財政難に加え、ごみの最終処分場の確保も困難な状況にあります。そこで、一人一人の市民の皆さんに家庭ごみの処理費用の負担をお願いしたいと思います。これが実現すれば、市全体のごみの総量は確実に削減できることになりまして、焼却工場の増設や新しい最終処分場も当面は不要になります。市の財政難の解消策にもなることから、私たちはぜひとも有料化を実現したい。……</p>	<p>*小売業者*…有料化に反対（予想される人件費負担と消費者の要求を主張）</p> <p>もし、ごみの有料化が実施されれば、お客様は、手数料の徴収を避けるために、小売店に使用済みの容器や包装材の引取りを求めことになるでしょう。しかし、私たちには、人件費をかけてまで回収コストを負担する余裕はありません。生鮮食品にトレイやパックをつけることは消費者の皆様のご要求ですし、軽くて便利なペットボトルの販売をやめるわけにはいかないのです。……………</p>
<p>*市民A*…有料化に賛成（市民間の不公平感の解消と消費者の意識変革を主張）</p> <p>ごみをできるだけ出さないように努力してきた市民と、ごみの処理費用がタダであることをいいことに、平気でごみを出し続けてきた市民とが、行政からまったく同じサービスを受けられるというのは理解できません。ごみをたくさん出す人が、ごみの処理費用をその分たくさん負担するというのは、合理的ですし、その分ごみも少なくなるのです。……</p>	<p>*環境経済学者*…有料化の課題を説明（有料化に取り組むための前提について説明）</p> <p>すでにごみの有料化に取り組んでいる自治体では、多くの場合、有料制を導入した初年にはごみの排出量は減少していますが、導入2年目以降には排出量が増加に転じています。やはり、大量生産・大量販売・大量廃棄の過程を放置したままで、ごみが発生した後に、排出後対策として有料化を導入し、リサイクル減量化を期待しても効果は薄い。……………</p>
<p>*市民B*…有料化に反対（不法投棄の増加と行政当局の税金内での処理を主張）</p> <p>有料化されれば、家計負担を少しでも減らそうと、資源回収に積極的になるというのは短絡的ではないでしょうか。いくら手数料を徴収しても、ごみをたくさん出す人が減るとは思えません。むしろ、手数料を課すことによって、ごみを不法に投棄してしまう人が増えてしまうのではありませんか。これでは効果があるとはいえません。今まで同様、ごみ処理は税金でまかなっていくべきです。…</p>	<p>*22世紀から来た少年*…22世紀のできごとを報告（未来のごみの実態を報告）</p> <p>このまちのごみ処理場は、もう満杯です。処理場には、「永久封鎖宣言」が出されました。土壌汚染がひどく、もうだれも近寄ることはできません。いまは洋上にごみを廃棄する計画が立てられています。家庭は、ごみ処理のため高額なチケットを買わなければなりません。ごみの不法投棄を取り締まるため、日常的に僕たちの生活は監視されています。もう生活の自由はないのです。……………</p>

IV 分析と考察

1 生徒の状況

ごみ問題のうち、社会的に注目されている話題性のある内容については、授業に入る前においても生徒の興味や関心は低くなかった。一方で、それらの問題と自分が排出しているごみの問題とを関連させて理解することが十分にできていない状況があった。例えば、自分の住んでいる地域のごみの収集日を知らない生徒や、ごみを燃やしてしまえばごみ問題はすべて解決するというような安易な考えをもった生徒も見られた。また、リサイクルについての意識は高いものの、行動が伴わなかったり、リデュースやリユースについてほとんど関心がなかったりする状況であった。これは、生徒の意識の根底に「ごみ問題はだれかが何とかしてくれる」という他人まかせの発想があるからではないか。

2 第1分科会の研究内容について

第1分科会では、ごみ問題解決に向けて、厳しい現実を直視して、制度・社会システムの面から、また個人の生き方の面から有効な解決方法を探究する授業を工夫した。時間と場所を越えて、江戸時代の生活やドイツのごみ問題への取り組みについて学習することによって、自分自身もごみ問題を解決していかなければならない社会の一員であるという実感をもたせることができた。また、授業者と生徒が一緒になって、身近にある課題、すぐには答えの出ない人類の課題に取り組むことができた。さらに、今回の授業を通じて培った探究心を基礎にして、現代社会が抱えるその他の諸問題や未知の課題に対しても積極的に目を向け、主体的に取り組んでいける姿勢を養うことが今後の課題である。

3 第2分科会の研究内容について

第2分科会では、現代社会の諸問題を解決していくために不可欠の条件である人間同士の連帯感と信頼感を分かち合うための授業を工夫した。エンカウンター、ゲーム、ロールプレイなどの体験的な学習は、準備から実際の授業に至るまでに相当の時間を必要とした。したがって、授業のねらいと意義をどのようなものとしてとらえ、年間指導計画の中でどのように位置付けておくかがポイントであることがわかった。また、生徒の興味や関心、それまでの個々の生活体験について把握したうえでの実践が大切であることを実感した。広い視野から多角的にごみ問題をとらえつつ、人間同士の連帯感や信頼感の重要性をさらに強く実感し合える授業となるように、3つの指導案を1つの授業の流れの中で合わせて実施し、指導の成果を分析することが今後の課題である。

4 全体を通じた課題

第1分科会と第2分科会の研究内容を結合させることによって、環境に対する人間の在り方を生徒自身の生き方と関連させてどこまで深く考えさせられるか、さらに行動の変容をどこまで促すことができるか、実践を通じた実証的な考察を継続する必要がある。本研究部会においては、様々な学習形態を取り入れ、それぞれの優れた面をできるだけ生かすよう工夫した。その成果を踏まえ、知識の習得のみにとどまらない、豊かな心と人格を育むための新しい授業の在り方をさらに探究していくことが今後の課題である。